Kadokawa Comics A

小玉有起

9

ブラッドラッド

お互い…何つう魔力だよ……

ブラッズはこんなのを本気で戦わせる気なのか…？

第41話♠胸に刺さる思いデ

小玉有起

ブラッドラッド

CONTENTS

第41話♠胸に刺さる思いデ…001
第42話♠扉の向こうに…039
第43話♠ハローグッバイ…073
第44話♠本当のチから…107
第45話♠バッドコースター…141

ゴゴゴオオン

この場所で…

僕は認めん…
殿堂魔界王の
復活リベンジマッチ
など…

ふざけるのも
いい加減に
しろ…！

見ろ！その話を
聞いた弟の反応を…

ガチガチ

ガチ

実の兄の
その悪魔的所業に
すっかり震えあがって
……

引くわ～～～～

よくもそんな
汚ねぇお父さんが
ナンバーワンなんだ
的な事を

ブルブル

ばかしげもなく
人様の前で大発表
出来たもんだな

当然だ…
何を恥じらう事が
ある

私は父を尊敬し
同じ血を受け継いで
いる事を
誇りに思っている…
それに

だから やめろっつ
てんだよ その身内を
大絶賛するやつ！

俺はたとえ親父が
本当に生き返ってた
としても…

あんな時代遅れで
頭の固え奴にまた王に
なってほしくなんかねぇな

しかし…

本当の才能を持っていたのは私ではなかった…

ズヴ。。

ドド
ドド
リチャーズ…
ドド
ボボボ
ドド
ドド

ガッハッ
ハッハッ!!

ゴオッ
ドドン

衰えてはいない様だな
ダディ
こっちの台詞だ…

おいおい
挨拶は
それくらいに
してくれよ

フワ

フワ

俺もここに
居るのとか
お構い無し
だったろ…今

憧いなヘッズ
文句ならダディに
言ってくれ

スタ…

フフフ…

間違い無ぇ…

マジで本当に…

お前なんだな
リチャーズ…

ああ…

今
吸収した魔力を
返させてくれ

能力も元通り
そのままか…

安心したぜ

ああ…

もしや
ブラッズは
「扉」の事を
知っているのか？

ところで
一つ訊くが…

……いや
知らない
はずだが…

そうか…あいつが
お前を生き返らせ
やがったのか…

……

もちろん

駄目だ

おっとぉ…

あの～～
お取り込み中 悪いけど
その「扉」って俺が
聞いてもいい話？

しかしもう
そうも言って
られん…

そうだろ
ダディ…

何の話だい？

…ああ

まさか
もう和解した
なんて言わないで
くれよ…？

手なんて
つないじゃってき…

アラッズ…

王との約束通り…

私は挑戦を
しに来たん
ですがね

ああ…
そうだったな…

玉座に相応しい
男を連れて…か

俺以外に玉座の
似合う男はこの男
しか居ねぇ…

確かに約束通りだ

……

ガッ

しかし私は

バ

ザッ

再び玉座に戻るつもりは無い

悪いなブラッズ

本気かよ……

ブラッズ…

お前は確かめたくて
ここに来たんだろう…

ちょっとまてよ
まさかお前…

おいおい…

ガコッ

バシュッ

カチッ

カチッ

……何だよ
それ…

これが私の
答えだ

これを見ろ

……

!

ドーン

ガ

ガ

ええ——!?

って

これで死刑にしましたよ てか

ああ そういう事にしてくれ

いやいや

ちょっと待てよオッサン!!

スタズか…! 大きくなったな

何だそのテンション! 怖えよ!

それよりこの! 今刺した奴!

ああこれか?

そうだよ 何してんだよ!!

それ…

マジで…

ドシュッ

悪いな…スタズお前も死刑だ

あーあー サクッとんでもねぇ事しちまったな

この後のケアどうすんだよ…

グル…

うお

…ここは…

…ここだ…

兄貴…？

おい

どうなってんだこれ

おい！

スタズか…

わからん…

気がついたら私も今ここに居た…

死後の世界か…？

は!?

知らねえよ

俺たって何かノリで親父に刺されて気づいたらここに居たんだよ

……そうかやっぱり私は父さんに刺されたのか…

そうか……

うわぁ…ガチでヘコんでるじゃねぇか…

めんどくせ

ま わかるけとよ

あんなにお前親父か主様になってくれると信して体張ったのにな…

何？10年かかったんだっけ？

それが蓋開けてみたら即無理の即死刺だもんな…

そらヘコむわ

お

ザッ

何だ？　やんのか？
あ？

おー？

お前には
わかるまい…

またそれかよ

ああわかんねぇよ
それがどうした

これは何かの
間違いだ…
父さんには何か
考えがあって…

カラン
カラン

これこれ…
ケンカを
するんじゃ
ないよ

ザッ

折角の臨死体験

楽しまなきゃ
ソンソン

なーんての

ホッホッ

おい
何か出てきたぞ
それっぽいのか…
村娘

ホッホッホ

それしやあ
始めるとするかの

ピ

ヒストリー じいさんの
おもいで
スライドショー〜
パッ
ジャジャジャーン

…

さあさあどうぞ
こちらの
席へ ホッホッ

お菓子もね…
あるんですよ
マジ?

うわっこれ超
なつかしい
好きなのを
とうぞ
ちょっと待てスタズ

いくら何でも
いきなり出てきた
謎の生物に心を
許すのが早すぎだろう
現状も把握出来ん内から
食べ物をもらうなと
どうなっても知らんぞ
うるせー
ニュースも
あるんしやよ
おしゃあ
ンンイヤー
エール

たしか今…
臨死体験と
言ったな…
ええ
そうです…
あなた方は今
厳密に言えば
死んでますから

ここはまあ
あの世とこの世の
境目みたいな所と
思ってもらえれば…
あ・あなたも何か
飲みます?
……
酒はあるのか?
ええ…ビールで
よければ

あれは突き刺した者の意識をとある場所へと送る転送装置

「歴史の鍵」と呼ばれる殿堂のトップシークレットアイテムだ

その在り処を知っていいのは王だけっていうな

（え…）

……

ゴゴ　ゴゴ

え？

ちーーん

……

おいこれどうなってんだよ…

マンで殺したのか？

実の息子だろ…

息子だからだろうな…

いやもうまったく意味がわからんしだな

だいたいあれ何なんだよ…

ああ　あれか…？

さて…

？

どうした？

ガチ

ガチ

何でもねぇよ

それより本題だ

ダダダ

もう何時来てもおかしくねぇ…

オ

オ

オ

アレをどうするか…

俺はお前の持つ力は理解しているし見くびってる訳じゃねぇが

10年前を繰り返すつもりはねぇ……

ああ……

だから協力者が必要だ

ゴゴゴゴ…

ぷにっ

気のせいか…
……

……それで
これから
いったい何か
始まるというんだ？
第42話♠扉の向こうに

ホッホ
私が承った
「歴史」は10年前…
あなた方の父上の身に
何かあったのか…

その答えを
見せるスライドショー

ジャーン

殿堂王と扉の歴史

……扉…

そう…王の
歴史は扉の
歴史

オオオオ

戦いの歴史
なんじゃよ…

ホッホッ

これは…

二界魔界に、初代の王」
が誕生してから
今の今まで
守り続けられてきた
秘密

まずは
〝魔素〟とは何か
という話だ

各自 楽にして
聞いてくれ

おう。

ところでこの酒は
うめぇなヘッス

とっから
出した？

人間界の
酒だけど

っていうか何た
この暴飲パーティー
みたいなの。
怖ぇよ

すべては
ここからじゃ

扉から
あふれ出る〝魔素〟
とは何か？

カシャ

魔素って何？

まそくん

わかるかね？

お。

クイズ形式か？

魔素とは我々の身体を形成する主要元素

魔族は皆それを個々の体内で循環させ魔力を作り生きている

ウム

ほぼ正解じゃが一つ重要な事が欠けておるな…

ホッホッ

それは魔素がいったい何処から来ているのか…という事じゃ

カシャ…

あの扉をくぐる前はいったい"何"だったのか…

俺には飴玉から綿菓子作った絵にしか見えねぇけどな……

……おそらく

人間が言う"魂"というものだろう

ブブーッ 残念！飴玉しゃないんしゃよ

ホッホッ いやわかってるよ

バカにしそんのか

生命エネルギー！オーラ…呼び方は何でもいいか人間の持つ見えない程度の微量の力は

我々の魔力と似通ったものだと研究でわかった…

ああ…冬実を生き返すっつって俺を騙した時言ってたやつか

……

覚えてろよテメェ…

カシャ

たまごいちゅん

DEAD

正解じゃ…

そう 本来魔界と人間界はお互いに輪廻を繰り返す

平行する二つで一つの世界だったのだ…

カシャ

ALIVE

人間界

DEAD

死んだ人間の魂は魔素となり魔界へ

DEAD

魔界

ALIVE!

逆に死んだ魔族の魔力は人間界へと還っていく…

輪だった

しかし……我々魔族は

そこに扉という魔素のダムを つくってしまった

ズズズ

何故か…？

恐れたのだ、増え続ける人々の数と…死に

自らが魔素に…弱れてしまう事に……

……

いまいち ピンとこねぇな…

俺達魔族は魔素で生きてんだろ？

だったら魔素かいっぱいイコールハッピーなんじゃねぇのかよ

……いや 魔族は自身の器に合った量の魔素しか吸収する事が出来ん

過剰に摂取した所で体外に排出されるだけだ…しかし

排出させる余裕がないほど周りが魔素に満たされてしまっていた場合…

文字通り溺れて窒息してしまうのだよ

これは実際小物を拷問する時などによく使われている手さ。

うわキモッ！

ホッホッホ

でも溺れるのはなにも小物だけではないんしゃよ…

あの扉の中に封印された

初代殿堂魔界王だった男だ

なっ

何だそりゃ…封印って…生きてるのか！

いや…

グリムの肉体はあの中で魔素に溺れて死んだ…

あそこに封印されているのは彼の魔力だ

カシャ

！

？

誰だ？こいつ

彼の名はヘルシャフト・グリム

我々の体は魔素で出来ている

きっき君はそう言ったのう

それはつまり…

我々を動かしている「魔力」は

常に肉体という名の魔素に守られて存在しているという事しゃ

だからたとえ肉体がその機能を停止したとしても

肉体と同じ魔素が外にあるかぎりその者の魔力は消えない…

そう…残っているのだ…

大量の魔素に守られ…

グリムの魔力は今もあの中にな…

グリムは欲深な男だった…

トクトクトク

魔界に降りそそぐ魔素を一箇所に集め…

こんな風に

穴を開け自分だけそいつを吸おうとした

ドボドボ

お…おいその酒……高いんだぞ!?

欲に飲まれ"欲"で溺れ死んだのさ…

そして…

コト

それを見て慌てて塞いだ

ジワ…

魔界のトップだった男が死んだ魔素量にビビってな…

それがあの扉だ

すべては自業自得

〝私欲〟と〝保身〟が生み出した負の産物…

俺達はその尻拭いをさせられてんのさ

クソッたれな王のクソみたいな体裁を守るためだけにな…

そう…それが王の

秘密だ…

扉が開く時…

～10年前・リチャーズ編～

さてそろそろ本番じゃ

この時…立ち会ったのは君達のパパとママ…

そして現殿堂魔界王のウルフダディじゃが…

ちょっと待ってくれ…

これはいったいどういう事だ…

扉が…開く
だって…？

扉が開く時
～10年前・リ

そんな事を
したら…

おいおい何だよ
急に…
酔ってんのか？

こんな昔話の
紙芝居に
エキサイトしてんじゃねーよ

バカな……
する必要のない事だ
封印してるんだろ。

ホッホッ

確かに…わざわざ
こちら側から開ける
必要などない事
じゃな。

カシャ

開けてしまう
のは…

向こう側の
存在じゃ……

ダリムの魔力は
時間をかけて少しずつ

周囲の魔素に
遺志を伝えていく…

無念に憤り…苦しみ
憎む想いが…肉体
となり…

やがて

カコン

それは

すべてを破壊し
飲み込もうとする
巨大なカイブツとなり

ギョロ

向こう側からやってくる…

ヒト

ヒト

カシャ
ス…
でたなー！
バケモノめ

奴を完全に消し去るのが王の仕事だ
準備はいいかっ
みんな！
カタカタ
OK！私が引きつけるわ！
スッ
ウォン！俺は奴が再び中へ逃げない様に扉を閉めるぜ！
よーし
いくぞ！

うおー！
スマヌ
今よ
リチャーズ！
奴を逃がすなよ
ダディ！
おい…
そこだ！
ホレェイ！
おいじいさん
おい…
ハアハア
ﾊﾟﾀ
ﾊﾟﾀ

やめとけ
やめとけ！
何かもうそれ
見てらんねぇから！
はあはあ
何のこれしき
ここが
一番の見せ場と
ばかりに頑張ん
なくていいから

第一これじゃ
何もわかんねぇし
なぁ

どばぁ
あぁ
ええええええ号泣!?

何故です父さん…

何故俺じゃなくウルフタティが…

この仕事を任されるどんなですか

俺が…まだ子供だから…

ノックス

ノックスさんの様に強い方が居る

俺が…もっと強ければ…

強ければ…

しかしその考えでよろしくないトコロ…ですよ…

その方がいい…

それがお前のためなんだ…

ずっと

守ってもらえるといいなんて思っていた

マジか!? お前マジでか!?

今のドコに感動する要素が!?

ガタッ

スタズ…

ガチン…

お前にはわかるまい…

チメェ 何なんだよまたそれかよ…

いちいちイラつかせる言い方しやがって

違う…

これは私にだけわかる事なんだ

そしてそれは…

ドメッ

今わかったんだ

ずっと…

ガキッ

ハ…ハ…

クソッ…

夢に浸かりっぱなしの…

無事か…？リチャーズ

ああ…

だが妻は

もっていかれてしまった…

私も

グリムの本体――魔力を吸収するしか悪い予想が当たった事

ZIPPO

「く…くそ力 魔力を外に出せ!!

剣に魔力を込めてなければそれで消える!

ああ…わかっている

さ…さかってそれをしまうとこ ろんな…

出来ない…

仙という魔素への執念さ

私の肉体を離れようとしない

このよよては 私は

ずっと…

そう思ってた…

ダディ…

任されてくれるか…？

でも違ったんだ…

私は10年前…

守るつもりでいた…
家族を…魔界を…
しかしそれは
私の驕りだった
私は何一つ
守る事は
出来ないまま……

タディに「最悪の時」という
仕事をさせてしまった
へッ…
すべて覚悟の上
臨んだ仕事だ
……
アラッズから
恨まれるのにはもう
慣れてたしな

この胸から心臓が
離れて逝く時に
この世に未練が
無かった
と言えば
嘘になる

それは
つい今しかたまで
この現実で起こっていた事も
そしてその中で
私は改めて本当に
当たり前の事に
気づかされた
時代は流れ
皆たくましく
生きているという
事に
私が自分勝手に
守ろうとした
世界は
私の未練が見せている
夢のように
感じられていたほどだ
私なんかに守られる
ほどヤワじゃない
という事に…

僕にも王の仕事を手伝わせてくれ

ああ…

だが…これは王の仕事ではない！

父さん、あの時と同じ事をもう一度言うよ…

皆の力を借りたい、なるべく多くの…

これは王の命令ではなく反旗を翻す呼びかけだ

王だった男が王制へ

魔界の仕事…だ

歴史を変える準備をしよう

ホッホ

よかった～
キミキミ間に合う量の
魔力は残ってた
みたいだね

まさか…

お前

これは賭け
だったんだけど、

ホラ僕 今心臓か
お散歩中だからさぁ

自力で魔力作れ
ないんだよねー

ピコン…

ボコン

ピコン 120

バカな…

抜け殻のはずの
体に…魔力が…!!

これは
……

120……か…

バッ

危うく死んじゃう
とこだったよ～

なんちゃって♥

ズズズ

アキム……

生きてたのか…

プッ

生きてたって…？
僕 死体なんですけど，

今のショーク
わかんなかった？

まあ聞いてよ ブラッスか
居なくなるまで
待ってたら
ガラスぶち破る魔力か
残ってなくてさ ～や

ぶち破れたのかも
しれないけどもし
ぶち破れなくて君にそれ
見つかったら出して
くれなかったろーし
そんな事考えてたら
寝ちゃったりなんか
しちゃったりなんか
してさ…

よーするに

出してくれて
ありがとう

はいこのポーズ

な

何の真似だ

いーからホラ

B·T

そのままじっと
してろよ

動いたら
殺しちゃう
カモだから

こう！

はい
せーの

何を…

あは

ドクン

！
ドクン・ドクン
マイホームへおかえり♡
僕

オオオオ
ブラッズの失敗は
魔力が外に出ない様
僕の心臓を閉じ込めた
事だ…
僕がいつでも
アクセスできる
ドクン
ドクン
枠の中にね…
父さん…？

BLOODLAD

第43話♠
ハローグッバイ

ドクン
もちろん
これで終わりじゃ
ない…
働いた分の
お給料はキチンと
払ってもらわないと
ね
……
ス…
君もそう
思うだろ？
ストロー？
…何を
する気だ…
僕が循環
させた魔力は…
ズッ
トプン
僕のものだ

ゴクンッ
おい…何だこれは…
何か起きている
ブラッズ！
おいブラッズ！
……よせ…
アキム…
ゴクッ
ゴクッ
ゴクッ
ゴクンッ
ゴクッ

オホン

この物語には
あまり長い字を
使せられないので
「ズラ」それだけ?、とかよ
わないように

それでは……

「悪逆へ…」

「悪って
すまなかった…」

「そして」

「真実を見てくれて
ありがとう…」

それでは最後に

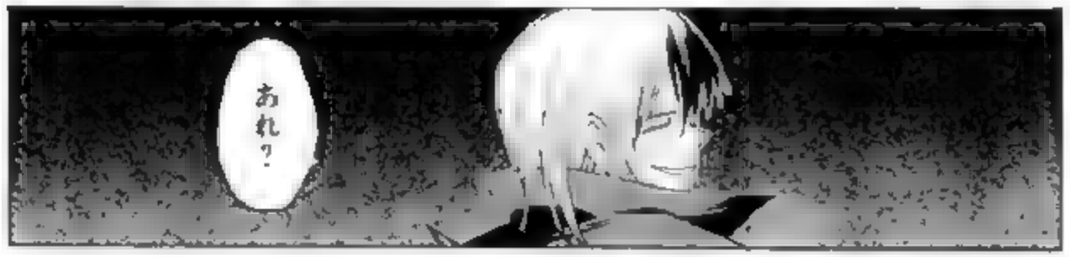
カサッ

ちなみに・

ギョッ
バ

「後はお前達に委ねる」
ヴァッ
バキ
ボキ
バキッ
ドッ
ズシャ
ゴア

ドドドドド
バサ
はい拍手(はくしゅ)♡


あれ？

……
ブラッズ…
どういう事だ
これは
説明しろ
何故リチャースは
倒れている
リチャーズに
何があった…
ギリッ

アハ☆

イイねぇその目
まさに
親の仇って
感じ出てて…
ビューティフルだ

ズ

でもちょっと
力みすぎじゃ
ないかな

動きが
にぶいよ

……

やあひさしぶり

ブシッ

テッメエ…

ドガオン ガロロロ

ミシッ

ズル

ミシ――

……

さあて…そろそろ
状況飲み込めた
かなっ

僕が全部飲んじゃった
からだ

リチャーズなんて
男はもう居ないんだ

状況わかってねェのは
ドッチだ？ あ？

俺達はテメェと
遊んでる場合
じゃねぇんだよ

ドドドドド

この中じゃさ…
あなたが一番だ

僕は
あなたと
やりたくて
ここに来た

でもちょっと
部位が古いかな？

やっぱり

こいつ
何を…言ってるんだ？

いきなり出て来て
…まさか…

ズズズ

戦おうと
言うのか

それが、何を
意味しているか
わかっているのか

そんな事…！

駄目です！
王!!

上位がかかるという事だぞ…!!

ズズズ

飼い犬に足を噛まれる
ってのはこの事だなぁ…

ドガ

アッハッハッハッハッ

王!!

I ♥ NEYO

…ヤバイぞ 完全にキレてやがる

ズズ…

ダディの奴…

加減する気が無い…!

ぼーん

キャッ

ギャ〜〜〜
やられた〜

キャッ

ってなるはず
だったんだろ？

今の技…

ギィイイイイ

絶対服従レーザー

バカな…
何故…
言ったろ
リチャーズを飲んだんだって
射出型の魔力は僕にはきかない
俺の魔力を…
吸収したって言うのか…
その通り…この口でね
これがリチャーズからもらった能力……
つまり人の魔力を操り動く僕は
ドドドド
吸い込めば吸い込むだけ強くなるって事さ…

バッ
さあどうする？
王様♡

ドドドドド

マズい…！

このままでは
ここも…

何とかして
傍遠で一人を
止めるしかない　か

誰かあそこに
割って入れる…

…私のせいだ…

こうなる事の
予想を…

アキムを
しっかり始末して
おけば…

まさか
あんた…止めに

早くしろ

……

？

おい

もういいだろ
この首輪
はずしてくれ

ようやくこれで
気持ちよく
ブッ飛ばせるぜ

シュ

カチャ

うつし

スタス…

スタズ…

！

このヘタレ野郎が
いつまでも
ウジウジ親父の
死体にすがってん
じゃねぇよ

ああ…こうなったのは
全部お前のせいだよ
お前のせいで
最悪の真っ最中だ

オオ
俺もよくあるぜ
こういう事
多分
「すべての元凶」歴は
俺の方が長ェだろう
から
一つアトハイス
してやるよ

ドン

持ってるものを全部
捨てて今と向かい合え

そうすりゃもう
失うものなんてねぇ

ドボッ

ハァ
ハァ

ズザザ

ズズ…

辛そう
だねぇ…王さま☆

じゃあ
そろそろ
幕を閉じようか

え

ブシィィッ

寂しそう
だったから

オオオ

会いに
来て
やったぜ…

ドゴーン
まさかひざまずいて
出迎えてくれるとは
思わなかったが…
悪くねえ再会だ

はい！
終了～～～
カチッ
第44話♠本当のチから
それじゃ
合わせしくサウ
隅っこ2人と
笑顔担当を
募集してる
ガシガシ
ベルちゃん
100点
ボーイ
0点：
ふっくしょん
あん？
かぜ？
ほんしの？
うるせえ!!
そんな団で見る
んじゃねぇ!!
ちょ
ノル
ノーって
あんな最凶と俺を
一緒にすんな！

オ オ オ オ オ

なんだあ…

誰かと思って
つい期待
しちゃったよ…

このあいだ僕から
逃げた

偽狼男君
じゃないか……

その通りだ

条件
その1

BLOOD LAD

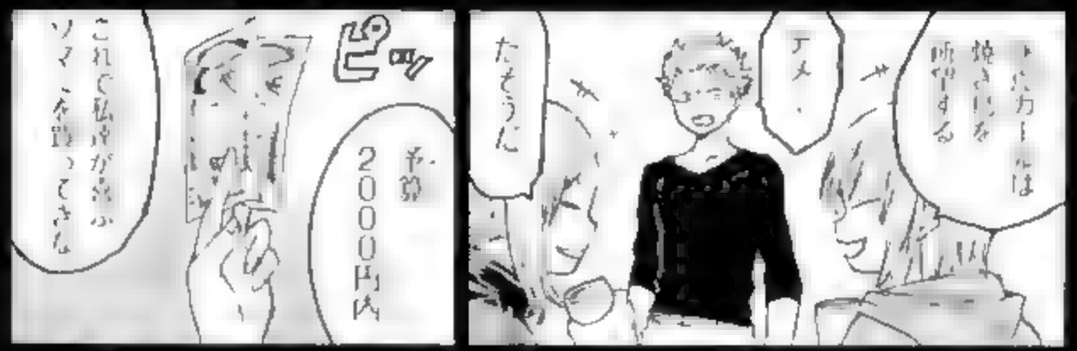
第44話♠本当の子から

典型的な
アホヤンキーだ
お前は頭が悪い上に
すぐカッとなる
認めるホーイ

あんだと!?
まれなヤーゆーとっ
ちかりそくねぇかっ
ぜひとめる、て
事が出来ねえん!
すぐに機ね遅けて
我が道を行こうと
する……

よっ姉しゃ
ねえけとな、
私のカバンが欲しい
なら成めないと
駄目だ
ガサ
お?
I度ツマミが
切れてよたわ
お前
ダッシュで
買ってこい
は?

私はトンカツなんて頼んでるからよ
え
のあま?
しいんスか
こんな授業でも
なんでもねぇ…
ただのバシリ
じゃねぇかよ
ああそうだぜ
当然だろ?
これがクソの
お前のお場た
0点ホーイ


トンカツ
焼き具合を
吟味する
アメ、
たそうに
これで私やがふ
ソマ を買ってきな
ピッ
予算
2000円内

このはじめてのおつかい
成功したら
何か
ご褒美を
やろう
わかったよ

随分素直じゃないか？

何か君…

この前とは雰囲気が違うね

お前もな

何だ…？下に誰か居るぞ

ブワン

殿堂王の息子だよ

！

！

ベッ…

ベル!?

聞いたわよパパ

ある人がホロ酔い気分で教えてくれたよ

この魔界に迫ってる危機の事もね…

ダディの部下に魔術を貰したんですって？

え…？何でそれを…

ウルフはそれを救いに来たんだ…

…フーン…

それで？

悪いけど僕は
今ダディと
戦ってるんだ…

教世主気取りで
出て来てもらって
なんだけとき。

君なんかは
眼中に無…

え…

ドゴ

114

なるほど
本当に

見えてねぇ
みたいだな

？

？

ザワ

おかしいな。

君ってそんなに
速かったっけ？

条件
その？…

"周り"をよく見る事。
だホーイ

自分の立場が
わかったらおのずと
周りも見えてくる

それを踏まえた
上で戦こう。

お前が今買ってきたもの・・・
ドッサリ
何だ？これは
それは多分野菜
アホかー!!
ガッ
誰が食材買って来いっつったんだタコ！
しかも"多分"って何だ
自分でもよくわかってないもん買って来やがって！
私が料理出来るとでも思ったか!!
周りをよく見ろ！そして私達の好みに合ったツマミを買って来いってんだ！
まあまあ
好き嫌いはいけませんよう
……わかったよ
作りゃいいんだろ 俺が
トントン
トントン
ジャッ
クンクン
ジャー
これだな
本能で味付けしてる・・・
すげえ
おい出来たぞ
ジャー
ポコ
ポコ
これは何なんだろうね
いい匂いはしてるけども
知らん
多分野菜炒めだろ
パクッ
……
…うむ
もぐもぐ
まずくはない…
というか
うまい…
うん

いやあー…酔ったわあ
まさか2000円でこれだけ楽しめるとは…
シャー
食える物と
食えよ
俺は少しでも
毎日にはウメー飯食わしてやりたかったんだよ
そんだけ
…………

コト…
そういえば・ご褒美がまだだったな・
ムチュー
ほれ 来い
ビキッ
ガシャー
ふざけんなクソババア!!罰ゲームじゃねぇか!
何だよ恥ずかしがってんじゃねーよ!
酒臭ぇんだよ!近よんな!
ケタケタ
アッハッハッハッハッ
…なんてな
ニッ
これがその3
最後の条件だぜ

"惹き込める事"…

ズ
ズ
ズ

不思議そうな顔してるな

自分より格下の相手にブン殴られたからか？

来いよ

ギリッ

言われなくても

行ってやるよ！

ゲッ…

…お前…
その力は…
ああ…
どうやら俺にも
受け継がれてた
みたいだぜ
……
最後の条件が
一番難しい条件
だった…
くもボーイ…
あんたには
初めから
それがあった
また…
距離が…
一気に縮んで
…ゆ
どうしたんだ
俺はまだ一歩も
ここを動いてないぜ
ズザザザザ

悔しいけど…
流石ダディの子だよ

……
ケイティ…
後は簡単だ
優しくトンと構えて
魔力を内側に集中しろ
トン

狼男の逆だ
自分を中心として立ち
身体の外…
周りの対象者をも巻き込むつもりでやれ

これは……
ズズズ

ゴゴゴ
!

吸い寄せられている…!?

これぞ喧嘩上等!!
タイマン最強の技

超引力(カリスマ)!!

強制的(きょうせいてき)かつ絶対的(ぜったいてき)な インファイト!!

来い……

ズッ!!

なるほど…面白いね

じゃあ これなら どうかな?

バカヤロウ!!

バシッ

ギュ

オッ

ナッ

相手を見るんだよ!!

何度言やわかんだ!! ボールを見るんじゃねぇ

いいか!? この技が相手にバレた時

決まってしかけてくる行動!

それが遠距離攻撃だ!!

もぐもぐ

ジャジャーン!!

ゴロロロ

ギュイイイ

アキムレーザー

発射(はっしゃ)!!

そのまま…ってたんじゃ埒が明かず振られて…ちまう

それがこの力の弱点だ

しかし！

わかっている攻撃なら

それは逆にチャンスだ!!

安全圏から余裕こいて

入口あけたチキンヤローは

ドゴ

粋がる前に

撃で沈めてやれ

ドゴ

な…

ドゴ！

アハッ

チッ…

テメエ…心臓の位置…変えやがったな…

まぁいい…

その体穴ぼこだらけにしてでも見つけてやるせ…

待ってくれ…

さっきまで…あの王より…

何故だ…ありえない…とうしてこんな…

だって僕は…

お前の敗因はそうやって

自分の立場を最後まで認めなかった事だ

間違い無え……

魔界上等

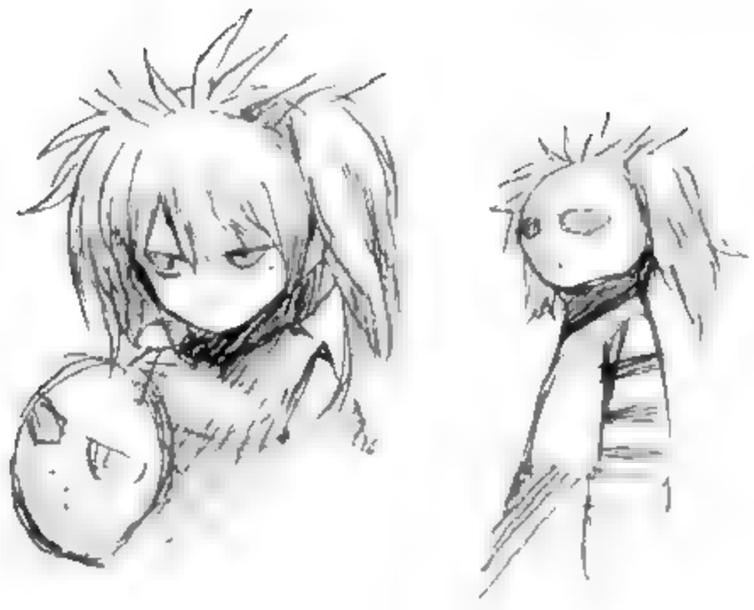
カチン

コイツはお前の…いや
俺達の子だ…
ケイティ…

！
ゴゴゴ
何だ!?
……これは
まさか
ゴゴゴ
ドドドドド

ドド
ドド
最悪だ…
このタイミングで…
アハッ
ドド

ズ
ギョロ



おいおい
待てって……
まさかこいつが…
例の……

あのバカ…

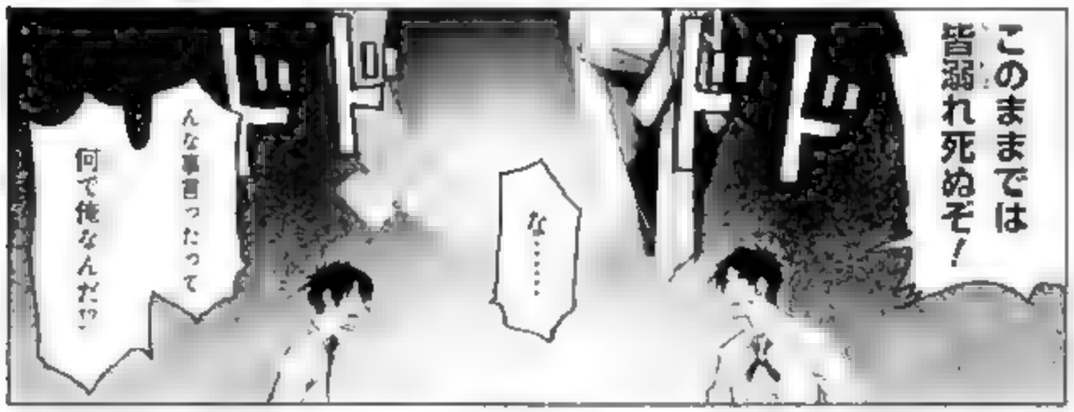
ビリ

ドド

ドド

アハ

俺にこんなのと張り合えって言ってたのかよ…



ドオオオオ

上等(じょうとう)だオラァア!!

ザッ
大丈夫か…
グディ…
オオオ
しかし
あいつ一人では
オ
ああ…
俺の息子が
グリムを
引き止めて
くれた…
ドパ!!

ギョロ
奴は実体の
無い魔力の塊
形を変え
周りに魔素が
ある限り
オオオ
永遠に
襲ってくる…!
へん
!
だったら何
だってのさ…

ゴゴゴ

そんなら私が
魔素なんて存在
しない空間に

その都度
叩き落としてって
やるわい

大福…

お前…

パチン

安心しな

グリムの帰る巣は
じき塞がれる

オオ

ゴゴゴ

つたく
しょうかねぇな…

俺はこんな事しに
殿堂に来たんじゃ
ねぇぞ…

ガッ

ギギギ

アアア
アアア

地味な仕事させや
がって…

覚えてろよ
クソ兄貴!!

ゴオオオ

クソが…全然手応えが無ぇ
焦んないの!
引き込む事だけに集中すんのよ!

……ッ!
ちょっ…部長!
部長もボーッとしてる場合じゃないっスよ!? コレ…
わかっている! しかし…
!
オオオ
なるほど♡

オオオオ

リチャーズは…

コレを飲み込みすぎて死んだのか…

ギョロ

グパッ

確かに凶暴な魔力だ…

でもただそれだけ…

美しくない…

キ゛キ゛キ゛キ゛

急げ…スタズ…

ぐっ

おおおおお

ハァ

ハァ

最悪の状況だ…

バチィ

うるせえ！
しゃべりかけんな…

こちとらテメエと
会ってからずっと
最悪だ

ああ…

アレは私の
せいだ…

ゴクン
ゴクン

私が生み出して
しまった…

破壊しか能の
無い君に必要
なのは

君を操れる
優秀な動力……
そうだろ…？

僕なら
それになれる…

ドド
ドド

君を生かせる
無限のエンジンに
……

ドド

無限の
美に……

ドド

な…

I ♥ EY

そう…

野郎…

グリムの魔力を…

いやあ 僕もやって みたかったんだよね

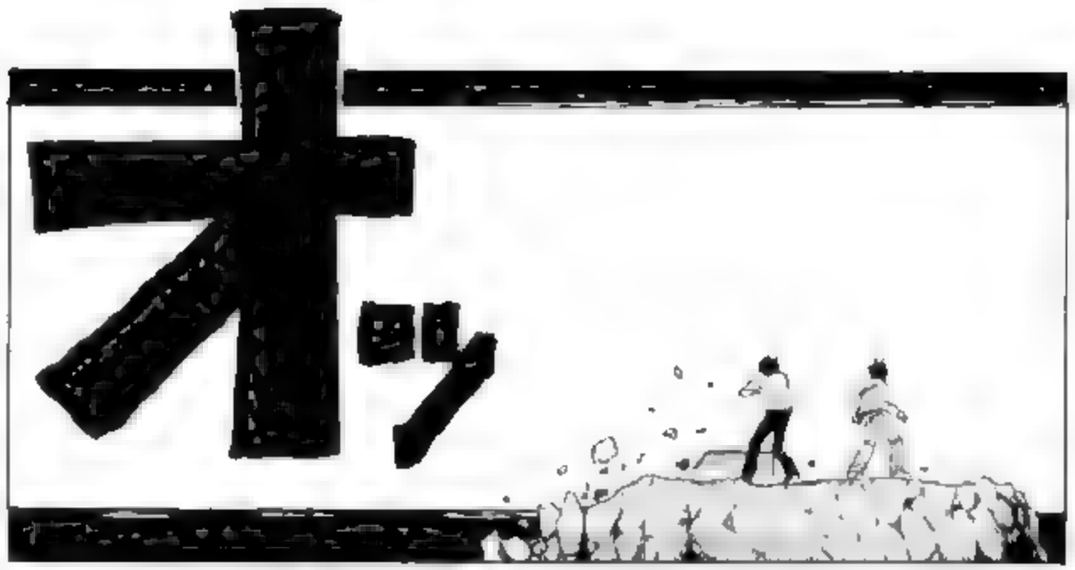
自分の魔力の具現化ってやつ？

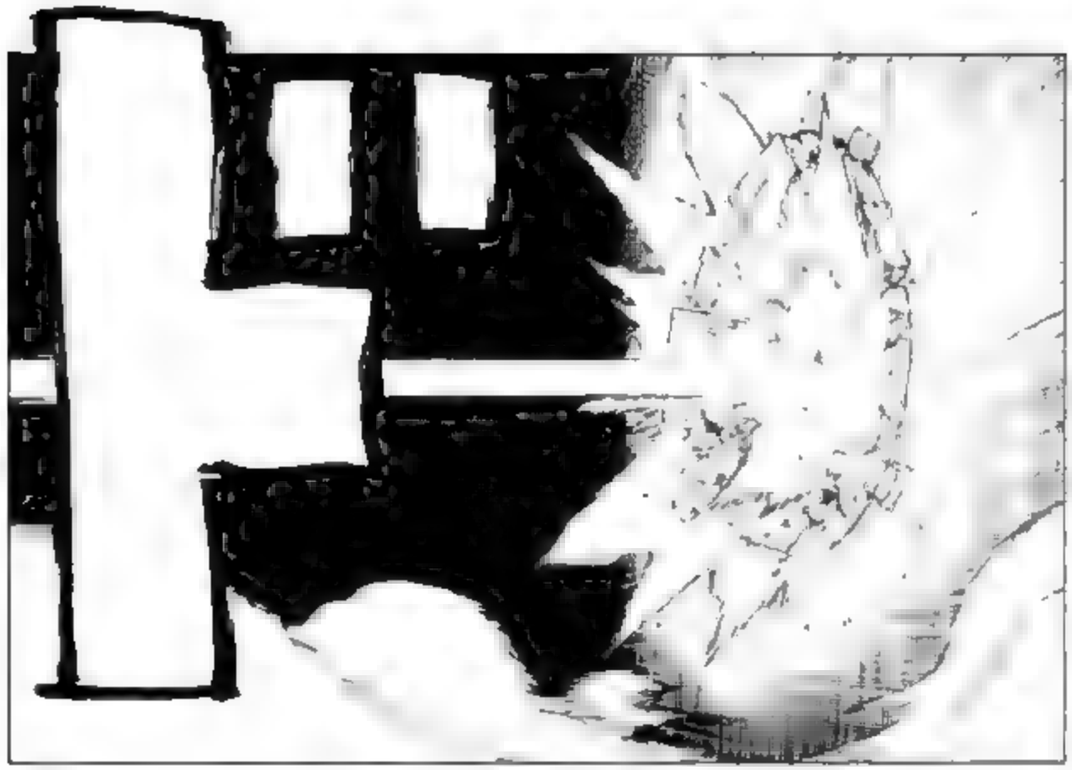
この

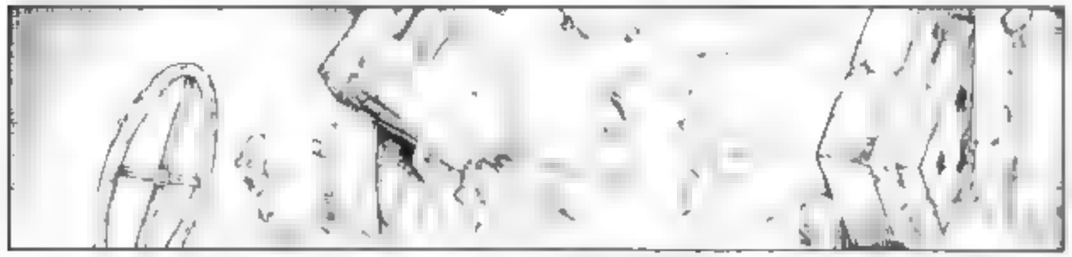
支配と引き換えにね…

ザパ
君達みたいなさ……
コォオオオオオオ
何やってんのウルフ!
引力に集中すんのよ!!

キュ
BANG☆
ドドッ


オッ


トモ



ア――ハッハッハッハッハッハ

あそこの小さい誰かさんの魔力に命中ー！

俺は今この魔素で魔力回復させてんだよ

ズズズ

……

よせ…

気持ちはわかるが冷静に考えろ！

ドドドドド

今は一度退くんだ！

スタズ！

グッ

冷静に考えろだ？

誰のせいでこうなってんだよ

逃げたきゃ
テメエで勝手に
逃げてろ

ゴ

俺はこんな
ナメられたまま
帰れるほど…

大人(おとな)じゃねぇんだよ!!
♠つづく♠

tobe
continued

魔界に生きる

今回は魔業職界の王…ウルフダディさんにスポットをあてたいと思います
彼の朝はシャワーから始まります
フー、
それではこちらへどうぞ
おう
朝の支度が終わるといよいよ王の仕事が始まります
おはようございます
おう
西魔界で謎の爆発!?
うむ…今日も平和でなによりだ！
王座に座り魔界の声に耳を傾ける仕事です
…という訳でして…
こちらがその新商品なのですが……
是非とも王にご賞味頂きたく……
魔界の声…と言いましたが
そしてそのまま朝食です
朝刊…魔のセットなどをしてもらいつつ新聞に目を通します
ゴ、
十

そのほとんどは
王へのプレゼントで

悪いが今
甘い物の気分では
ない

その商品などを
褒めようものなら
たちまち

この様なキャラチコピー
を勝手につけられて
しまうのです

あの！
毛むくじゃら
まんじゅう

超空王も
愛した味！！

なので基本的に
NGなのですが
たまに…

どうです？
王さま

うっふ～ん

このクリーナー
試してみたく
ありません？

ほう

商品よりも
プレゼンターを
気に入ってしまい

だ…駄目
ですよ!?
王!!

宮殿での王の
世話係として
スカウトする事も
しばしば…

ギシッ

ダディちゃん
気持ちいい？

ああ…
もっと強く
てもいいぜ

この様にして
集められた
女の子達は

上乗っちゃ
おっか

キャッ

おお
それそれ

キャッ

ギシ…

王のプライベートを
最も知る存在となる訳で

ちょっと

君
君！

王は今日…
何が食べたいとか
言ってたかね？

ヒソ

ヒソ

え――

周りは王に直接
聞きづらい事などを
彼女達から聞き出します

176

本日はご精の出る
コースを用意して
みました

……何だ急に

いん…
そういう訳では…

これじゃまるで
俺が疲れてる
みてぇだな

え

たっただちょっと
小耳にはさんだと
言いますか…

女連か…

は…はい

食べたい物は
特に言って
なかったけど

ダディちゃん
最近元気
無いっていうか…

時々私達と
一緒に居ても

どこか遠くを
見ている様な
目をする時が
あるの

一日の締めくくり
王の最後の仕事

彼は必ず
この場所で扉を
見ます

誰もその
心情を知る
者はいません

彼が何を思い
扉を見つめて
いるのかを

戻るか…

おう
それそれ

強めの酒を
作ってくれ

この間の…

ストロング
デンジャー？

こうして
王の仕事は
続くのです

END

BOOK☆WALKER

角川コミックス・エース
ブラッドラッド(9)

著者：小玉有起

発行日：2013年7月4日
発行者：井上伸一郎
発行所：株式会社 角川書店
©Yuuki KODAMA 2013

角川コミックス・エース
『ブラッドラッド(9)』
(2013年7月4日初版発行)に基づき制作